

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和5年度 伏木高等学校アクションプラン - 1 (1) -		
重点項目	学習活動(学習指導)	
重点課題	主体的・対話的で深い学びを引き出す授業の推進	
現 状	・教員は「主体的・対話的で深い学び」を意識して授業を行っているが、生徒自身に自ら学ぼうとする意欲や主体的に授業に取り組む姿勢を持ってほしい。 ・生徒はタブレットやI C T機器を利用した授業に興味を持って参加しているが、学力の定着度を確認するとあまり成果がみられず、「深い学び」にまではつながっていないようである。	
達成目標	① 主体的に学習に取り組んだと自己評価する生徒の割合	② 互見授業に年間3回以上参加した教員の割合
	60%以上	70%以上
方 策	・タブレットやI C T機器を活用した授業を推奨し、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れて、生徒が主体的に授業に取り組む姿勢を育てる。 ・「主体的・対話的で深い学び」を実現する指導法の研究のため、2週間の互見授業期間を年に2回設定し、相互評価や意見交換を行くことで授業改善を行う。	

〈評価基準〉 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

令和5年度 伏木高等学校アクションプラン - 1 (2) -		
重点項目	学習活動(国際理解教育)	
重点課題	国際交流活動の推進	
現 状	・国際交流活動に必要な英語の基礎力を身につけるため、授業の他に本校独自のS E Tプログラム（毎朝5分の英語放送）を行っている。 ・第2外国語として学んでいる、中国語、韓国語、ロシア語を活かし、友好校との交流を促進する。海外研修を復活させるために、昨年度より友好校との連絡調整をすすめている。	
達成目標	① S E Tプログラムに積極的に取り組む。 ② 第2外国語の学習に積極的に取り組む。	③ 国際交流活動に積極的に取り組み、充実感を得る。
	それぞれ80%以上	それぞれ80%以上
方 策	・複数教員によるS E Tプログラムを実施し、生徒がより興味をもって取り組めるようにする。 ・友好校との相互交流を充実したものにする。（研修、オンライン等） ・2学年全生徒に対しては、国内研修及び海外研修の機会を設け、1，3学年全生徒に対しては、希望者を募る。	

〈評価基準〉 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

令和5年度 伏木高等学校アクションプラン - 2 -		
重点項目	学校生活(生徒指導、保健衛生)	
重点課題	モラル意識の向上と清掃活動の充実	
現 状	【モラル意識の向上】 基本的な生活習慣の定着を目指し、授業、生徒会活動、学校行事、部活動など学校生活のあらゆる機会を通して指導している。生活習慣の乱れを修正できずに遅刻を重ねる生徒がいる。制服の着こなしは概ね良好で規範意識が高い生徒が多い。挨拶の習慣がついている生徒は増えてきたが、挨拶に躊躇している生徒もみられる。 【環境美化の意識向上】 清掃活動や環境美化に取り組む意識は高まりつつある一方、ゴミの置き忘れや分別のマナー等、改善の余地が見られる。	
達成目標	① 生活全般におけるモラル意識の向上	② 環境美化としての清掃やゴミ捨てマナーの向上に意欲的に取り組んだという生徒の増加
	95%以上	
方 策	【モラル意識の向上】 ・学校生活調査を年間2回実施し、現状の把握に努め、個人面接やHR、全校・学年集会において生活習慣の改善の啓発に努める。 ・スーパーモラル顕彰制度により、生徒が相互にモラル意識の向上を図る。 ・保護者に理解と協力を得ながら、全教職員が粘り強く指導に取り組む。 【環境美化の意識向上】 ・教職員や生徒対象にアンケートを分析し、清掃活動やゴミの分別への啓発方法を検討する。 ・美化週間や保健委員会などの生徒主体の活動を通して、分別やゴミ捨てマナーの意識付けや生徒の清掃活動の充実等、環境美化の意識向上を図る。	

(評価基準) A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

令和5年度 伏木高等学校アクションプラン - 3 -		
重点項目	進路支援(進路指導)	
重点課題	進路目標の明確化と進路実現	
現 状	・自己の適性に応じた進路目標を抱くことができるように、進路に関する情報提供の機会を多く持ち、個々に寄り添った面談を重ねるように努めている。 ・進路目標の決定を早期に行うことにより、各自の課題を明確に把握し、日々の学習に対するモチベーションの向上に努めている。	
達成目標	① 第2学年3学期スタート時点において進路希望先を明確に設定した生徒の割合	② 第3学年の進路決定について、満足のいく進路実現ができた生徒の割合
	60%以上	90%以上
方 策	・進路関係行事、総合的な探究の時間等を利用し、進路意識を高め、進路目標を明確にさせる。 ・インターンシップやオープンキャンパスなどに積極的な参加を促し、情報収集に努めさせる。また、レポート作成やプレゼンテーションを行うことを通して、生徒同士が多くの情報を共有し、互いに刺激し合いながら自己の適性を把握し進路意識の向上を図ることに努める。 ・面談を重ねることで、現実を客観的に把握し、将来にむけての課題を明確にさせる。	

(評価基準) A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

重点項目	特別活動(地域交流活動と読書指導)	
重点課題	地域交流活動の活性化と読書教育の充実	
現 状	【地域交流活動の活性化】 本校では地域交流活動として地域の方々と関わりながら行うボランティア活動などを数多く実施している。これが生徒の成長を育んでいる重要な活動の一つとなっている。多くの学びや体験を求めてこれらの活動に意欲的に参加する生徒を育てたい。 【読書教育の充実】 本校生徒は読書体験が少なく、その効用や楽しさを経験していない人が多い。図書委員会の活動を活発に行い、「BOOK TALK」や「図書だより」等の広報活動を通じて、落ち着いて積極的に読書に親しむことができる環境を整えたい。	
達成目標	① 生徒が地域交流活動に参加して充実感を感じ、意義ある活動と捉える。 (事後アンケートで調査)	② 読書活動に積極的に参加できた生徒の割合 70%以上 (事後アンケートで調査)
方 策	【地域交流活動の活性化】 - 今年度はコロナ禍以前のように多くの地域活動が再開されると思われる。これらには例年通り参加する。また地域活動の中で、生徒が地域の課題に気づき、自分たちでできることを見つけ、それらに自ら取り組んでいけるようサポートする。 【読書教育の充実】 - 新入生への図書館オリエンテーションの実施と図書館の読書コーナーの内容や展示の仕方を工夫する。 - 図書委員の活動を活性化し、生徒図書委員からの意見やアイデアを盛り込んだ。 「BOOK TALK」や「図書だより」を作成、発行し図書館の利用を促進する。	

〈評価基準〉 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成できなかった D：達成できなかった